

- アハズ王の時代。国家滅亡の危機が訪れる。北に位置するアラム(シリア)とイスラエルが結託してユダ王国に攻め入ろうとする。
- アハズ王と民の動揺(7:2)。帝国アッシリアに助けを求めようとする。
- その時にイザヤに対して主が語られる(7:3ff)。
 - 「シェアル・ヤシュブ」
 - 「上の池の水道」→アハズ王は籠城の構えをみせていたしるし。
- 主からのメッセージ:
 - 「気を確かに持ち」、「落ち着いていなさい」、「恐れてはならない」「心を弱らせてはならない」(7:4)
 - 北諸国の計画は実現しない(7:7)
 - 信じなさい(7:9) → No faith, no people.
 - ◇ 信仰とは神の民の核心である。主に対する信仰が彼らのアイデンティティを定める。信仰がなければ神の民としての存在もなくなる。
- そして主はアハズ王に「しるし」を求めると語られる(7:10ff)。信仰に確信を与えるために。
 - その invitation を拒否するアハズ。「私は求めません。主を試みません。」(7:12)
 - ◇ 主を試みないということは敬虔な姿を現しているようにみえるが、ここは本質的に「不信仰の罪」を表している。
 - ◇ モーセ(Ex 3:12)、ギデオン(Jud 6:36ff)との比較。
 - この時がまさに決断すべき時であった。主を信頼し、主の前で「落ち着いて」「恐れぬ」、主を完全に信頼することが求められていた。信仰のない敬虔さは危険。アハズはそれを理解していなかった。
- 主からのメッセージ:「一つのしるし」(7:14)
 - 男の子、インマヌエル=神は我らとともにおられる(Num 14:9; 2 Ch 13:12; Ps 46:7; cf. Gen 3:8; 26:28; 39:2-3; Ex 40:38; Jud 6:12-13; 1 Sam 18:12, 14; 2Ch 15:9; 2 Ki 18:7; Ezra 1:3)。一方で Num 14:43「主はあなたがたとともにおられない」となるとどうなるか。Trouble.
 - 「凝乳と蜂蜜」(7:15, 21-22) → 貧しい者の食事の意味(平和がない)。神のしるしであるこの子は民の貧しさの中に生まれる。実際、この後、アッシリアによってダマスコもイスラエルも陥落する。
- 危機に直面した時に主から問われること
 - 主を信頼せよ。
 - ◇ 主は人よりも賢い愚かさや人よりも強い弱さによって我々と出会ってくださりまことの救いへと導かれる(コリント第一 1:18-25)
 - 静まれ
 - ◇ 問題に直面した時に先ず主の前で静まること、これぞ信仰者の姿である。慌てず静まり、平安を保持できることは主を信頼している証拠となる。
 - イエスキリストの言葉:「あなたがたの信仰のとおりになれ」(マタイ 9:29); 女性への言葉(マルコ 5:34)
- 信仰の決断を拒否する時、そこには神の裁きがあることを聖書は語る。
 - 神さまの裁きの徹底さ(7:18-25)、神さまの裁きの経路(8:1-5):アハズが主を拒否したことによって「その日」は確かなものとなる。「アッシリアの地」(7:18)と「インマヌエルよ、あなたの地」(8:8)
- Zoomでキャラバン祈禱会(9月19日)に参加して:十勝めぐみ教会の証(Ecc 9:11)。
- 自らを救おうとすることを止める時、イエスキリストの贖いと救いの道そしてその力を体験することができる。Be still and know that I am God (Ps 46:10)。信頼=待つこと。まさに今こそ我らの決断の時である。